

報告者：久木留 毅（文学部教授）

■ラフバラ大学研究拠点活動報告 No.6

5月13日(月)、14日(火)

■Ian とのミーティング(水曜日/スポーツ政策情報プロジェクト)の準備

研究プロジェクトとして、明確な Out Come, Out Put を提示した上で、誰がどう進めるのか、さらにはタイムテーブルを作成することが決定(Ian からの要求)。

そこで、英国スポーツ界のターニングポイントを仮説として抽出し、それぞれの歴史的経緯を整理。その後、担当者の役割分担とタイムテーブルの仮案を作成して臨むこととした。



5月15日(水)

■ Ian とのミーティング (No.5)

最初に作成したペーパーを基に簡単なプレゼンを実施した。その後、Ian から様々なアイデアが出て、それについてディスカッション。4つの研究の Principle として Evaluation を置く事を提案された。渡英から一貫して Ian には、日本のスポーツ政策形成過程において Evaluation System(評価システム)を構築していくことが重要であり、最終的にはそのための根拠となる研究としたいと伝えていた。



■日本人留学生との連携について

ラフバラ大学事務職員として働く Eriko Cochrane さんとミーティングを実施した。今後のことを考えて、日本人学生(学部生、大学院生)のネットワーク構築を視野に入れてミーティングを行った。

5月18日(土)

■世界卓球選手権(パリ)視察

日本卓球協会の前原氏が、今大会期間中に実施された副会長選挙(8名選出)にて2位通過で時期副会長となった(任期4年)。

木村氏(日本卓球協会副会長/前 IF 副会長)にご挨拶。その後、木村氏より様々な IF 内情についてレクチャーを受けた。星野強化本部長より試合観戦時の解説を頂いた。



5月19日(日)

■ Loughborough International Athletics 視察(ラフバラ大学)

Nick Darkin(ラフバラ大学 SDC 所属コーチ) の招待にて、大会視察を行った。ボランティアの活用とネットワーク化、簡易に会場を設えられるグッズ(看板等)や運営能力については、学ぶべきところが多

報告者：久木留 毅（文学部教授）



いと感じた。国際大会だからと頑張り過ぎるところが日本にはあるが（そのため簡単に国際大会を誘致できない）、柔道、陸上そしてレスリング（これまでの経験）を含めてかなり簡易に設えて国際大会を誘致している。簡易に設えられることで、多くの大会を誘致できジュニア層のアスリートに経験を積ませている。今回も Team GB Junior が多くの種目に参加していた。この辺りは、日本でも工夫が必要だと感じた。

---

#### ■まとめ

政策情報研究については、Ian とミーティングを重ね漸く方向性が落ち着いてきた。

各競技の国際大会には積極的に視察に行く事で得られる情報があることを改めて実感した。ただし、それまでの準備が最も大切である（ネットワーキング）。視察を視察で終わらせることなく、どうすれば日本にとって良い方向に行くのか考える必要がある。

ラフバラ大学で実施された Loughborough International Athletics の視察では、今後の国際大会誘致に関して多くのヒントを得ることが出来た。引き続き大学内外で実施される各競技の国内外の大会等に脚を運びたいと思う。